

聖学院大学 地域連携事業報告

2018



子ども大学あげお・いな・おけがわ開催の様子

聖学院大学地域連携・教育センター

目次

はじめに.....	1
1. 地域連携・教育センターの活動.....	2
1-1 聖学院大学の地域連携の方向性	2
1-2 聖学院大学と地方自治体との協定	4
1-3 地域連携・教育センターの動き	6
1-4 助成金による支援（ボランティア・まちづくり助成事業）	7
2. 地域と連携する授業.....	9
2-1 地元学（全学共通）	9
2-2 宮原地域学（全学共通）	9
2-3 埼玉学（人文学部）	10
2-4 釜石学（全学共通）	10
2-5 ボランティア論・概論（政治経済学部・心理福祉学部）	11
2-6 ボランティア体験の言語化技法と実践（全学共通）	11
2-7 コミュニティサービスラーニングⅠ・Ⅱ（全学共通）	12
2-8 インターンシップ（企業型・PBL 型）（全学共通）	12
2-9 被災地支援・インターンシップ A～C（全学共通）	13
2-10 地域活動実習 A～C（全学共通）	14
3. 高大連携.....	15
3-1 復興支援活動を通した高大連携.....	15
3-2 高大連携授業.....	17
3-3 ボランティア関連授業を通した高大連携	18
3-4 その他の学校間連携	20

4. 教職員と学生による地域活動	21
4-1 Discovery あげお（八木規子ゼミ：組織行動論研究）	21
4-2 フェアトレードチーム「empower」（M.サベットゼミ：国際理解）	22
4-3 アッピー応援隊（金谷京子ゼミ：発達心理学）	23
4-4 パワフルキッズ（金谷京子ゼミ：発達心理学）	24
4-5 地域の福祉施設×福祉を学ぶ学生との交流事業（小沼聖治ゼミ：生活支援論）	25
4-6 ここ輪（相川章子ゼミ：精神保健福祉論）	26
4-7 子ども大学 あげお・いな・おけがわ	27
4-8 特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化推進	28
4-9 さいたま KI-TA まつり	29
4-10 大谷地区自主防災啓発事業	30
4-11 復興支援イベント「未来をひらく～3. 11～」	31
4-12 ほたる祭り	32
4-13 復興支援ボランティアスタディツアー	33
4-14 ボラフェス	34
4-15 総合図書館による地域連携活動	35
5. 公開講座	36
5-1 公開講座	36
5-2 履修証明プログラム	37
5-3 社会人を受け入れる教育プログラム	38
6. 学外委員会での活動（委員会名・役職名リスト）	39

はじめに

学生は、教室で学んだ専門的な知識や能力を確実に自分のものにするために、様々な機会を利用して、それらを試したり、活かしたりすることが必要です。卒業後、社会人としてそれぞれの道で活動・活躍するためには、多様な人とのコミュニケーションの取り方などを身に着けることも求められます。このような学生にとって、地域は、学びを深め、社会人として成長するための場として欠かせない存在です。教員にとりましても、地域は、具体的な事象を調査・研究する重要な場です。

一方、少子化による人口減少や住民の高齢化などにより、地域は多様な問題・課題に直面しています。行政だけでそれらに対応することは不可能であり、多様な組織や人が取組むことが望まれます。大学も地域の一員として、地域の問題・課題に関わる時代となっています。

そこで、聖学院大学では、2013 年に地域連携・教育センターを開設し、地域の方々のご協力を頂いて学生の地域での学びを支援するとともに、大学として社会貢献を果たすべく、自治体、企業、NPO などの地域諸団体との連携を図っています。

本冊子は、聖学院大学の地域連携活動の 2018 年度分をとりまとめたもので、学生たちのボランティア活動については、別冊の報告書を作成しており、本報告書と合わせて、本学の地域連携の全体像が見えるようになっています。聖学院大学の地域連携につきまして、ご理解と引き続きご協力をいただければ幸いです。

地域連携・教育センター所長／副学長／政治経済学部教授

平 修久

1.地域連携・教育センターの活動

1-1 聖学院大学の地域連携の方向性

聖学院大学では、地域連携・教育の方針として、2017年に下記のような方針を決定しています。

聖学院大学 地域連携・教育方針

大学と地域は、対等な立場で、相互理解を深めながら、共に成長し合う関係である。そのため、本学は、地域での学生の学びに際して地域貢献を心掛け、地域活動において市民や学生など関わる人々の学びや成長を大切にする。

このような地域連携・教育を通して、学生が本学の教育目標である「良き隣人となる」ことを目指す。学びや活動の一つひとつ積み重ねることにより、周囲の人々にとっての良き理解者・パートナー、時に支援者や伴走者になることである。このことが、多様な人々と共に生きる共生社会を、地域に形成することにつながる。

1. 地域を対象にした学び（課外活動を含む）

【方針】

- 地域の歴史・文化・産業・生活を学ぶ。
- 地域での体験・活動を通して、教室での学びの確認・実践・深化を図るとともに、実践力、対話力、共感力を強化する。
- 地域という身近な教材を活用して、学ぶ意識を醸成・強化したり、学びのテーマを発見したりする。また、多種多様な人との出会いを通して、将来の進路を見つける。
- 身近な活動場所である地域において、「手伝う・参加する」から、「つくる・企画する」へと地域への関わり方を深化させる。

【方法】

- サービス・ラーニング
- ゲストスピーカーによる授業・講演
- 多様な人々との交流
- 施設等の見学・視察、まち歩き
- ボランティア活動 など

2. 地域を対象とした研究

【方針】

- 地域の問題・課題の分析及び改善・解決に関する研究や、地域の事例を扱った研究を進める。

○研究の成果は、地域へフィードバックする。

【方法】

○行政や企業などとの協働研究

3. 地域への貢献

【方針】

○本学の特色を活かした社会的役割の具現化を図る。

○地域との望ましい関係性を構築し、維持する。

【方法】

○大学の施設（図書館、グラウンドなど）の開放

○地域に開かれた大学：授業の開放、公開講座の開催、学園祭、大学創立記念音楽祭、
ほたる祭りなど

○地域・地域の企業・役所等への出前講座

○地域問題解決への参画

○行政設置委員会での委員活動

○ボランティア活動

2017 年 12 月 13 日大学教授会承認



1-2 聖学院大学と地方自治体との協定

聖学院大学では、地域連携を強化するため埼玉県内の自治体との包括協定を始め、東日本大震災の復興支援がきっかけで、岩手県釜石市との連携協定を締結し、各自治体と緊密な連携を図っています。

①さいたま市と聖学院大学との連携に関する包括協定

締結日：2013 年 3 月 29 日

連携事項

- (1) 健康・福祉に関する事項
- (2) 地域の活性化に関する事項
- (3) 人材の育成に関する事項
- (4) 学術研究や教育に関する事項
- (5) 災害対策に関する事項
- (6) その他両者が協議して必要と認める事項

②上尾市と聖学院大学との連携に関する包括協定

締結日：2013 年 9 月 27 日

連携事項

- (1) 地域資源を活用した経済・産業・地域活動の振興に関すること
- (2) 健康・福祉の向上に関すること
- (3) 人材育成に関すること
- (4) 学術研究および教育に関すること
- (5) 災害対策に関すること
- (6) その他、目的を達成するために必要な事項

③春日部市と聖学院大学との包括的連携協定

締結日：2014 年 4 月 22 日

連携事項

- (1) 地域政策に関すること。
- (2) 健康・福祉の向上に関すること。
- (3) 人材育成・交流に関すること。
- (4) 地域の活性化に関すること。
- (5) 生涯学習の推進に関すること。
- (6) その他前条の目的を達成するため必要な分野に関すること

④釜石市と聖学院大学との連携に関する協定

締結日：2014 年 1 月 29 日

連携事項

- (1) 子どもの健全育成と保健福祉の推進に関すること
- (2) 地域の活性化に関すること
- (3) 復興支援等に関すること
- (4) その他両者が協議して必要と認めること

⑤その他の協定について

特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化推進に係る連携協定

締結日：2014 年 7 月 18 日

締結先：埼玉県

目 的：少子高齢化が進行する中で特別県営上尾シラコバト住宅における諸課題に対応する研究や取組等を進めることにより、団地の共助による活性化、良好なコミュニティ形成等に資すること

1-3 地域連携・教育センターの動き

(1) 活動の目的と経緯

2012年4月にそれまでも取り組まれてきた地域における学生ボランティア活動への支援と2011年3月11日に起きた東日本大震災への支援を継続的に行うため、ボランティア活動支援センターが設置されました。翌2013年4月1日に「自治体、企業、NPOなどの地域諸団体と連携し、大学として社会貢献の機能を果たすとともに、聖学院大学学則第2条に基づき、地域活動に参加することにより『実践的に成熟し、民主的な社会人としての良識と見識をもった有為の人間を育成する』教育的使命を遂行する」ことを目的に地域連携・教育センターが設置されました。

(2) 活動内容と実績

①自治体との協定に基づく連携調整

埼玉県、さいたま市、上尾市、春日部市、釜石市と締結した協定に基づき、年1回の連携推進会議の他、自治体・大学の要望に応じて、各種委員の推薦、講師の調整、連携事業の実施に向けた調整を行っています。協定を締結していない行政や教育機関等からも、各種依頼に対して調整を行っています。

②地域団体・企業との連携調整

大学の最寄駅のJR宮原駅周辺の商工関係者で構成される「さいたま北商工協同組合」を始め、大学周辺の企業・NPO等と連携し、事業実施に向けた調整を行っています。

参考:2018年度地域連携・教育センター相談対応件数

月	件数	月	件数
2018年4月	4	10月	3
5月	6	11月	1
6月	3	12月	1
7月	5	2019年1月	1
8月	3	2月	2
9月	7	3月	1
合計			37

③大学と地域が連携して行う事業の支援

大学と地域が協働して取り組む事業において、支援を行っています。具体的な事業については、21ページ以降に紹介します。

(3) 担当部門

担当部署：地域連携・教育センター

1-4 助成金による支援(ボランティア・まちづくり助成事業)

(1) 活動の目的と経緯

学内で地域連携や地域貢献活動に取り組む学生団体(ボランティア団体)やゼミ活動への支援として、2015年度から大学同窓会と連携し総額30万円の助成を行っています。助成にあたっては、公開審査会におけるプレゼンテーションや事業終了後もポスターセッション方式による報告会が行われます。そのため、助成金申請を通して、自分たちの「伝える力=プレゼン力や事業計画づくり」を磨くとともに、地域の方々や先輩・教職員等多くの人が応援していることを実感すること、さらに、地域の方々に、学生の活動を知っていただくと共に彼らが行き組む「地域の課題」について知っていただくことにつながっています。また、公開審査会の際には来場者が任意で学生を直接応援できるシステムである「ドネーションパーティ」を導入し、学生と地域の方々が直につながるきっかけの場にもなっています。

(2) 活動内容と実績

①実施スケジュール

日にち	実施内容
2018年 5月14日(月)・ 15日(火)	説明会兼研修会 応募を予定している学生グループを対象に応募概要の説明とプレゼンテーション講習を行った。
6月16日(土)	公開審査会&ドネーションパーティ 第1次審査では申請団体のプレゼンテーションと書類をもとに、審査委員、学生審査委員(各申請団体)が審査、ポイント数によって助成金の交付、未交付を決定。さらに2次審査では交付団体への助成金額を審査委員で話し合い、発表を行った。また、直接学生を応援できるドネーションパーティを開催し、来場者と申請団体との交流会も実施した。
2019年 1月11日(金)	活動報告会 助成金交付団体による活動報告会を実施。審査委員をはじめドネーションパーティに参加した地域の方々にも来場いただいた。審査委員に各活動について講評をいただき、後日学生たちへフィードバックした。

②審査委員

NO	選出枠	肩 書	氏名（敬称略）
1	専門家（ボランティア関係）	社会福祉法人上尾市社会福祉協議会 上尾市ボランティアセンター	山田清美
2	専門家（NPO 関係）	NPO 法人埼玉情報センター事務局長	秋本創
3	地域の方	上尾市ボランティア連絡会会長	本城文夫
4	地域の方	さいたま北商工協同組合 副理事長	新井一年
5	大学同窓会	役員	鈴木雄亮
6	ボランティア 応援卒業生	メディカルソーシャルワーカー	浅野早百合
7	大 学	副学長 ボランティア活動支援センター所長	平修久
8	大 学	地域連携・教育センター運営委員	春木豊

③ 申請団体と助成額

NO	団体名	申請額	獲得ポイント	決定額	寄付金	合計
1	アップー応援隊	32,000 円	11	32,000 円	7,000 円	39,000 円
2	ムーミンの会	50,000 円	9	40,000 円	11,000 円	51,000 円
3	Discovery あげお	50,000 円	7	32,000 円	15,000 円	47,000 円
4	パワフルキッズ	40,000 円	6	28,000 円	9,000 円	37,000 円
5	Heart&Smile	50,000 円	10	45,000 円	9,000 円	54,000 円
6	聖学院大学防犯ボランティア チーム STOP!	50,000 円	13	50,000 円	15,000 円	65,000 円
7	empower	50,000 円	6	28,000 円	19,000 円	47,000 円
8	聖学院大学復興支援ボラン ティアチーム 【SAVE】	50,000 円	10	45,000 円	24,000 円	69,000 円
	合計	372,000 円	72	300,000 円	109,000 円	409,000 円

（３）担当部門

担当部署：ボランティア活動支援センター

2.地域と連携する授業

2-1 地元学（全学共通）

（1）授業の目的と経緯

普段暮らしている「地元」であっても、意外と知らないことは多い。また、最近のまちおこしなどでも、地元の資産を当たり前すぎて気が付かないことを掘り起こしていく手法も常套である。こうしたことから地元への気づきをどのように行うのか、という手法を実践的に学ぶ。

（2）活動内容と実績

「地元学」は、地域とは何か、地域に住むとはどのような関係性の中で暮らすことなのか、そこには大学の学びの専門性とどのようなかかわりがあるのか、といった基礎知識と理解をすることを目的とする。そのため、講義及び実際にこの周辺を歩いて学ぶ。実際にフィールドワークを行い、その成果をまとめ、発表するといった流れで、アクティブラーニングを主体とする。

（3）担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：猪狩廣美、渡辺正人

2-2 宮原地域学（全学共通）

（1）授業の目的と経緯

地域での学外授業と、グループでの討議・作業・発表を軸としたアクティブラーニングを通して、地域の理解を深め、地域の発展に資する学生の役割、調査方法、計画づくりについて学ぶ。

（2）活動内容と実績

地域社会には、幅広い年齢層の人々が多様な考え方をもち、それぞれの暮らしを営んでいる。地域での暮らしをより良くするには、居住者ばかりでなく、地域で働き、学ぶ人たちも協力・参画することが望まれる。

本学に接する宮原地域では、約20年間にわたり、イベント開催や地域調査などを、地域の方々と学生がともに取り組んできた。本講義では、地元のさいたま北商工協同組合の協力を得て、宮原地域の概要を学ぶとともに宮原地域をより良くするための方策を考える。

（3）担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：平 修久

2-3 埼玉学（人文学部）

（1）授業の目的と経緯

聖学院大学がある「埼玉」という地域の場合に視点を設定して、その上でグローバル化した時代において地域に生きるとはどういうことかを、埼玉の歴史、文学、思想、言語、芸術等の多様な文化領域から考える。また、そのような具体的な事象をふまえつつ、大学で学ぶことの意味を広く考えていくことをめざす。

（2）活動内容と実績

人は地域の中で生まれ、育ち、生活をしているが、同時に生活の中で場所的限定を越えて人間の生き方を考えもする。そして、現代では生活の場自体が通有の世界的な問題や状況（人権、経済的困窮など）の中にあるが、本講座は、地域を生きつつ、同時に地域の場合においてグローバル化した状況下に生きる私たちの有りようの可能性を、埼玉・北関東という場をてがかりに考えていく講座である。

（3）担当部門・担当教員名

担当部門：人文学部（2年次必修科目）

担当教員：コーディネート担当として 清水均、氏家理恵、村松晋

2-4 釜石学（全学共通）

（1）授業の目的と経緯

聖学院大学と釜石市の提携関係の中、本学学生の釜石地域に対する理解を深め、今後の連携関係を進めてゆく基盤をつくる。

（2）活動内容と実績

2011年の東日本大震災で、東北は大きな被害を受けた。東北は、歴史的にも数度の地震やそれに伴う津波による被害を受けながらも、そのたびに立ち上がり、今日を迎えている。それには、東北の持つ風土的な特性があり、そこに暮らす人々の精神性が深く関係していると言われる。そうした東北の中でも、本学と関係を深めてきている釜石市とその周辺を取り上げる。釜石市は、他方ではラグビーの町としてグローバル的な地域でもある。本学の掲げる「グローカル」な場としてのモデルとして考えていく。「東北に生きる」ということを通じて「地域で生きる」ということはどういうことかを、考えてみたい。

（3）担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：渡辺 正人、平 修久、金谷 京子



2-5 ボランティア論・概論（政治経済学部・心理福祉学部）

（１）授業の目的と経緯

東日本大震災以降、災害支援のボランティア活動を始め、最近ではオリンピック・パラリンピックボランティアなどが注目されています。このボランティア活動について、改めて自分たちの日常レベルに落として考えると共に、現代社会におけるボランティアの実情と意義を学びます。「ボランティア=いいこと」という理解ではなく、その問題点も理解した上で、受講生一人一人が自分なりの「ボランティア観」を持てることを目標としています。

（２）活動内容と実績

講義とゲストスピーカーの話を中心とした内容となります。ボランティア・市民活動についての基礎的な知識、また実際の活動内容について学びます。受講人数によっては、参加者同士のグループワークも複数回実施する予定です。また、課題レポートでは実際の活動に参加した上での感想と考察が求められますので、講義外でのボランティア活動にも参加していただくことになります。

（３）担当部門・担当教員名

担当部門：政治経済学部・心理福祉学部

担当教員：川田虎男



2-6 ボランティア体験の言語化技法と実践（全学共通）

（１）授業の目的と経緯

ボランティア体験を言語化することはなぜ重要なのでしょう？まず、体験を通して自分が感じたことを整理したり深く考えたりすることで、社会の問題を自分の課題として考えることができます。また、ボランティアの現場で明らかになった自分の特徴や強み・弱みを再確認して、自己成長に役立てることができます。そして言語化されたボランティア体験は、他者に参加を促し、課題解決を後押しする可能性もあります。

受講者がこれまでに参加したボランティアを、ただ単に体験して終わりではなく、言語化できるようになり、成長につながるようにするのが目標です

（２）活動内容と実績

言語化技法として、自分自身との対話であるボランティア体験を振り返る技法と、外向けの表現としての文章やプレゼンテーション技法を学び、実践します。講義全体の半分ほどが、文章作成・プレゼンテーション・グループワークなどといった実践となるため、準備学習は必須となります。文章作成は1回以上行い、作成した文章は受講生全員に配布します。プレゼンテーションは、受講者全員に向けたものを1回以上行います。グループワークは、受講者数によって2名から5名程度を1グループとして行います。講義が中心の回は、簡単なレポートを記入していただきます。

(3) 担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：若原幸範、宮腰義仁

➤ 2-7 コミュニティサービスラーニング（CSL）Ⅰ・Ⅱ（全学共通）

(1) 授業の目的と経緯

サービスラーニングは、地域社会や地球規模の問題解決のために活動する学外の組織・施設で社会貢献活動をしながらかるく学ぶ体験学習の手法である。また、そのプロセスにおいては、必要に応じて学生の主体的参加と課題探求・解決を中心にすえた学習方法 PBL(Project Based Learning)も用いる。この授業では、その準備として基礎知識の習得、活動現場の選択と活動計画づくりを行う。

(2) 活動内容と実績

この講義は、別に開講するコミュニティサービスラーニングⅡ（CSLⅡ）の準備を目的としています。CSLⅡは、学生一人ひとりが原則 50 時間以上の社会貢献活動に参加し、事前学習、ふりかえり、レポート作成、発表などを通じて、学びとしていく科目です。本講では、そのための準備として講義・実習を行います。

(3) 担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：川田虎男

➤ 2-8 インターンシップⅠ・Ⅱ（企業型・PBL 型）（全学共通）

(1) 授業の目的と経緯

インターンシップをそうした有意義な機会にしていくための準備を本講座では行います。インターンシップは近年では就職活動においても欠かせないものになってきています。採用選考にインターンシップを導入している企業もあります。

この講座で学ぶことは、進路を考える役に立つ、インターンシップ実習を実りあるものにする、というだけでなく、就職活動の際にも役立つ内容となっています。また、社会人として必要なビジネスマナーや基礎的なコミュニケーションについては、ワーク実践を通して学びます。マナーやコミュニケーションは知識として知っているだけでなく、身につけて実践できることが重要です。毎回の授業を通して、少しずつ力をつけていきましょう。

(2) 活動内容と実績

インターンシップとは何なのか、なぜ今インターンシップが注目されているのか、インターンシップと就職活動の関係など、まずインターンシップの基本的理解を行います。そのうえで、インターンシップを充実したものにするために必要な準備を行なっていきます。実習先を決めるための準備

として必要な、自己理解と業界・企業理解。これらは将来の進路先・就職先の選択にもつながっていきます。また、実習にのぞむにあたって必要なビジネスマナーやコミュニケーションについても学びます。インターンシップ実習をただ漠然と過ごすのか、将来につながる機会にしていくのか、それは準備の質に大きく左右されます。充実したインターンシップにできるように、一緒に楽しみながら学んでいきましょう。

(3) 担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：酒井俊行、中田順平



2-9 被災地支援・インターンシップ A～C（全学共通）

(1) 授業の目的と経緯

地震、津波、台風・大雨などの自然災害の被災地では、復旧、復興に関する多様な支援を必要とする。関連する活動に携わることにより、災害の復旧・復興の課題、留意点、方策などを学ぶ。被災地の課題や支援ニーズなどを人に説明し、支援のあり方などを考えられるようになることを目標とする。

(2) 活動内容と実績

本学の定める機関、又は活動の証明が可能な外部機関等で被災地および避難所における復興支援活動を行う。または、被災地の民間企業、NPO、自治体等における実務実習を行う。

(3) 担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：平修久



2-10 地域活動実習 A～C（全学共通）

（１）授業の目的と経緯

地域の問題は、地域住民が協力して対応することが求められる。しかし、高齢化により地域の担い手が減少し、学生を含む若者も地域の運営や維持に関わることが期待されてきている。本科目は、地域の問題・課題を理解し、地域活動に関わり、住民による地域の運営や維持の重要性を学ぶものである。地域の問題・課題を人に説明し、それらの対応策を考えられるようになることを目標とする。

（２）活動内容と実績

清掃や高齢者の見回りなど、自治会・町内会などの地縁団体や外部機関等が中心となって地域課題に取り組む活動を実践したり、地域イベントの企画・運営などに携わる。合わせて、それらに関連する必要な事項を外部機関等で学ぶ。

（３）担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：平修久

3. 高大連携

3-1 復興支援活動を通じた高大連携

(1) 活動の目的と経緯

2011年8月より、本学ではボランティアスタディツアーを実施しています。今年度は、春、夏、冬と、計3回のツアーを実施しました。本ツアーのうち、夏のツアーでは高大連携として、系列校である聖学院中学高等学校とさらには、自由の森学園高等学校と共催し、ツアーの企画作りから大学生・高校生が協働して取り組んでいます。



「釜石よいさ」に参加する自由の森学園高等学校、聖学院中学高等学校の生徒と本学学生

(2) 活動内容と実績

i) 自由の森学園高等学校との連携協定

自由の森学園高等学校生徒の聖学院大学復興支援ボランティアスタディツアー参加に関する協定
締結日：2018年4月27日

目 的：大学が実施する復興支援ボランティアスタディツアーへの自由の森学園高等学校に在学する生徒の参加について、大学は地域連携・高大連携事業の一環として受入れ、実施に当たっては、大学と高校が連携し取り組む。

ii) よいさっ！プロジェクト5

東日本大震災から震災から2年の2012年8月に復活した釜石の夏の風物詩である「釜石よいさ」に踊り手として参加することと、こどもあそびのイベント「かまっこ★あそびーらんど」の実施をメインとしたプロジェクトです。今年度は、聖学院中学高等学校、自由の森学園高等学校の生徒が参加しました。

① プロジェクト会議の実施

本学（復興支援ボランティアチーム【SAVE】）と自由の森学園高等学校内でプロジェクトリーダーを選出。2校のプロジェクトリーダーと聖学院中高も含む3校の教職員で月1回程度の合同会議を実施。また本学においては週1回ペースでプロジェクトリーダー会議を独自に行いました。さらには現地の下見を本学のプロジェクトリーダーと3校の教職員で行い、ツアーのプログラム作りを行いました。

- ・合同会議：5月19日(土)、6月23日(土)、7月14日(土)
- ・プロジェクトリーダー会議：5月16日(水)、23日(水)、30日(水)、6月6日(水)、13日(水)、20日(水)、27日(水)、7月4日(水)、11日(水)、18日(水) 毎回2時間半程度計10回
- ・下見：7月7日(土)～9日(月)

② ツアーの実施

- ・ツアー準備会：7月18日(水)
- ・ツアー事前学習会：7月21日(土)
- ・ツアー日程：8月3日(金)朝～6日(月)夜
- ・活動場所：岩手県釜石市・宮城県石巻市
- ・活動内容：
 - －8/3(金)夕方：被災地見学と現地カメラマンのお話(釜石港周辺、釜石市民交流センター)
 - －8/4 午前・午後：選択活動①

- 鵜住居地区生活応援センター周辺住民の方々との花のプランターづくりと交流
住民の方々と釜石シーウェイブスの選手との食事会
釜石シーウェイブスの選手とのプランター・ラグビーワールドカップのぼり旗設置
- 釜石原木椎茸再生プロジェクトのお手伝い
- 仮設住宅周辺の草刈りと交流会・消防団員さんのお話 ※高校生のみ

－8/4 夕方：「釜石よいさ」への参加

－8/5 午前・午後：選択活動②

- 「かまっこ★あそびーらんど」の開催
- 釜石原木椎茸再生プロジェクトのお手伝い
- 被災地見学と根浜海岸の清掃

－8/6 朝：宝来館女将のお話

－8/6 午後：宮城県石巻市立旧大川小学校フィールドワーク

－活動のふりかえり(8/6 午後～夜、帰りのバス内)

- ・参加者数：聖学院大学 学生 25 名、教員 5 名、職員 4 名
 聖学院中学高等学校 生徒 4 名、教員 1 名
 自由の森学園高等学校 生徒 13 名、教員 2 名 合計 54 名

③ ツアー実施ふりかえり

ツアー実施に向けた企画の段階からツアーの総括として、各校のプロジェクトリーダー、聖学院中学高等学校の生徒と3校の教職員ともに振り返りの時をもちました。

日時：8月29日(月)13:00～16:00

(3) 担当部門

担当部門：ボランティア活動支援センター

3-2 高大連携授業

(1) 活動の目的と経緯

高大連携の一環として、関わりの深い高等学校生徒に対し、学内で大学教員による講義を行いました。埼玉県立常盤高等学校とは、「聖学院大学と埼玉県立常盤高等学校との相互協力・連携に関する協定書」を締結し、5年間継続し今年度が最終年度となりました。クラーク記念国際高校とは、今年度より、近隣の地域及び埼玉県という地元で活躍できる人材の育成と、両者の知的資源等のリソースの活用によって当該地域における社会貢献に寄与することを目的に連携が始まり、学内授業を開始しました。



埼玉県立常盤高等学校の生徒さんを対象とした授業の様子

(2) 活動内容と実績

i) 埼玉県立常盤高等学校

日時：2019年2月26日

受講者：看護専攻科第1学年 78名

授業内容：1限 長谷川 恵美子「ストレス対策とうつ予防」

2限 中谷 茂一「子ども虐待とネグレクト」

3限 古谷野 亘「高齢社会の元気高齢者」

4限「本学学生との交流会」

ii) クラーク記念国際高等学校

春学期

①5/8 小池 茂子「ユネスコと生涯教育」

②5/15 松本 祐子「ファンタジー作品に見る異世界からの帰還」

③5/22 久保田 翠「子どものうたで遊ぶ」

④5/29 鎌原 雅彦「自分を知る」

⑤6/5 寺崎 恵子「赤ちゃんとおしゃべりする」

⑥6/12 佐藤 千瀬 佐藤ゼミ合同授業

⑦6/19 小川 隆夫

⑧6/26 齋藤 一雄「障害児の理解と社会合同授業」

⑨7/3 野村 春文

⑩8/28 「SDG s について」 ワールドカフェ ワークショップ

⑪9/11 ボランティア活動支援センター「ボランティア論」

秋学期

①9/18 ボランティア活動支援センター「ボランティア論」

②10/2 古谷野 亘「高齢者福祉」

③10/9 相川 章子「精神保健福祉 ソーシャルワーク」

④10/16 小沼 聖治「精神保健福祉 ソーシャルワーク」

⑤10/23 中谷 茂一「結婚に関する現代社会の多様性」

⑥10/30 長谷部 雅美「ずっと暮らし続けたい地域とは？ 地域ケア」

⑦11/20 長谷川 恵美子「臨床心理学、医療心理学」

⑧11/27 金谷 京子「臨床発達心理学」

⑨12/4 堀 恭子「生涯発達心理学」

⑩12/11 大橋 良枝「心理療法、精神療法」

⑪1/29 図書館主催「ビブリオバトルワークショップ」

(3) 担当部門

担当部署（埼玉県立常盤高等学校高大連携授業）：地域連携・教育センター

担当部署（クラーク記念国際高等学校高大連携授業）：アドミッション課

➤ 3-3 ボランティア関連授業を通した高大連携

(1) 活動の目的と経緯

2015年3月11日に聖学院中学高等学校生徒会企画の「2015.3.11 いま僕たちにできること」への運営協力がきっかけとなり、学生が次世代(高校生)に東日本大震災を語り継ぐプロジェクトを実施しています。また、2018年度においては、高校生にボランティア活動の魅力を伝え、始めの一步を踏み出す機会づくりとして、活動体験報告や高校生・大学生によるワークショップなどを実施しました。



埼玉県立蓮田松韻高等学校で東北での復興支援活動を紹介する学生たち

(2) 活動内容と実績

日にち	場所	実施内容	実施体制
2018 年 6 月 25 日	松実高等学園	被災地の現状報告を活動紹介と「被災地のために、 また震災の風化を防ぐために私たちができること は何か？」をテーマにワークショップ 参加者：高校 1 年生 40 名、2・3 年生 70 名 教員 2 名	学生 4 名 職員 1 名
2018 年 9 月 11 日	クラーク記念 国際高等学校	高校生に対して、ボランティア活動の魅力や自分自 身の成長の場になることを伝え、ボランティア活動 へのモチベーションを高めると共に、はじめの一步 につなげる。 参加者：2・3 年生 30 名×2 回	学生 6 名 職員 1 名
2018 年 9 月 18 日	クラーク記念 国際高等学校	高校生に対して、ボランティア活動の魅力や自分自 身の成長の場になることを伝え、ボランティア活動 へのモチベーションを高めると共に、はじめの一步 につなげる。 参加者：2・3 年生 30 名	学生 6 名 職員 1 名
2018 年 10 月 5 日	埼玉県立蓮田 松韻高等学校	被災地の「いま」を知っていただくとともに、今の 自分たちにできる復興への関わり方について、一緒 に考えてる機会にする。参加者：1 年 35 名×2 回 ※授業内容が NHK、埼玉新聞に取り上げられた。	学生 2 名 職員 1 名
2018 年 12 月 12 日	東京都立 世田谷総合 高等学校	被災をした学生の話から、東日本大震災で起きたこ とを知っていただくとともに、防災の大切さや、自 分なりの被災地との関わりについて考えていただ く機会として、実施。 参加者：全校生徒 700 名	学生 1 名 職員 1 名
2019 年 3 月 12 日	聖学院中学高 等学校	大学生／中高生による被災地の現状報告と活動紹 介、全体グループワーク「今、僕たちにできること」 参加者：中 1～高 2 の生徒約 60 人	学生 4 名 職員 1 名

(3) 担当部門

担当部門：ボランティア活動支援センター



3-4 その他の学校間連携

1. 埼玉県立上尾橘高等学校就業体験受入れ

上尾橘高校から依頼を受けて、「高校生就労体験活動プログラム」の受け入れ先として、2018 年 11 月 7 日～13 日の 5 日間、2 名の生徒の受け入れを行い、大学職員の仕事についての学びの場を提供しました。

担当部門

担当部署：管理部総務課

2. 上尾市立南中学校 大学体験「聖学院大学のキャリア教育」

上尾市立南中学校より中学生に学生生活を紹介するプログラムを実施してほしい旨の依頼があり、近隣の中学生に聖学院大学キャンパス紹介と大学生活（就職情報含む）を紹介するパネルディスカッション及びキャンパスツアーを実施しました。

日 時：9 月 2 9 日（土）10:40～12:30

会 場：聖学院大学 7401 教室

参加者：上尾市立南中学校生徒 5 9 名、保護者 5 名、引率指導教諭 8 名

担当部門

担当部署：管理部総務課

4.教職員と学生による地域活動

4-1 Discovery あげお（八木規子ゼミ：組織行動論）

（1）活動の目的と経緯

上尾市内の運動施設（運動公園・武道館）を訪れる利用者に対する「上尾らしさ」のPRという行政課題に対して、学生・外国人留学生ならではの多様なアイデアを提供できるなどの特性を生かし、行政と連携してまちなかのにぎわいづくり、上尾市のイメージアップを図りました。

（2）活動内容と実績

本プロジェクトは、「平成30年上尾市協働のまちづくり推進事業」に採択され、上尾市と協働して「まちなか賑わいマップ」を1月25日に発行しました。ゼミに所属する学生たち（ベトナム・中国・日本／政治経済学科3、4年生13名）が、上尾に来たら立ち寄りたいインスタ映えスポットを取材し、冊子にまとめました。発行にあたり上尾の魅力を発見するインスタグラム・フォトコンテストも実施しました。

八木ゼミは組織行動論を学ぶゼミです。ゼミにおける学生の多様性も重視し、国籍、性別、個性、価値観の異なる学生が協働して一つのテーマを追求できる学びの方法を取り入れています。この度の事業を通して、学外へ学びの場を広げ、地域の産業に触れ、住民の生の声を聞くことで、学生たちは新たな学びの視点を得ることができました。

（3）担当部門

担当部門：政治経済学部政治経済学科

担当教員名：八木規子准教授



発行された「まちなか賑わいマップ」

4-2 フェアトレードチーム「empower」(M.サベットゼミ：国際理解)

(1) 活動の目的と経緯

フェアトレードの仕組みを知ってもらうと共に、バングラディッシュやネパールで働く女性や子どもたち、発展途上国で暮らす「取り残された人々」への支援を行っています。

(2) 活動内容と実績

欧米文化学科のサベットゼミでは、グローバル化が進む世界における貧困や格差について学んでいます。今年からは、実践を通して学びを深めると

いう視点から、「empower」というチーム名で、特定非営利活動法人シャプラニール＝市民による海外協力の会の協力のもと、フェアトレードの周知活動と商品の販売に取り組み、10月14日(日)に開催された「あげおワールドフェア 2018」(主催：上尾市国際交流協会)での初出展に続き、翌月11月2日(金・祝)～3日(土)に行われた本学学園祭「ヴェリタス祭」においてもフェアトレード商品の紹介と販売を行いました。

(3) 担当部門

担当部門：人文学部欧米文化学科

担当教員名：M.サベット教授



あげおワールドフェアでフェアトレードの周知活動と販売に取り組む empower の学生たち

4-3 アッピー応援隊（金谷京子ゼミ：発達心理）

（１）活動の目的と経緯

NPO 法人 AGETTO の依頼を受けて、上尾市のゆるキャラ「アッピー」を上尾市内の保育所・幼稚園の子どもたちに親しんでもらうこと、学生が、保育所・幼稚園の子どもたちと交流し、子どもたちに喜びを届けることを目的として活動を行っている。



（２）活動内容と実績

2018 年度は下記 3 か所の保育所で活動を行いました。活動内容としては、上尾市

のゆるキャラ「アッピー」とともに保育所を訪問し、大型絵本の読み聞かせ、手あそびうた、じゃんけん列車などを行いました。

①緑丘保育所 日にち：5 月 31 日 活動人数：6 人

②小敷谷保育所 日にち：6 月 7 日 活動人数：6 人

③原市保育所 日にち：10 月 10 日 活動人数：9 人＋児童学科学生約 10 名

（３）担当部門

担当部門：心理福祉学部心理福祉学科

担当教員名：金谷京子特任教授

保育所を訪問するアッピー応援隊の学生たち

4-4 パワフルキッズ（金谷京子ゼミ：発達心理）

（１）活動の目的と経緯

埼玉県から依頼を受け、一般社団法人すくすく広場、シラコバト団地自治会と連携し、上尾市にある県営上尾シラコバト団地の活性化につながる子どもたちのあそび場の提供を行っており、七夕やハロウィン、ひな祭りなど季節にあわせたイベントを継続して行っています。



（２）活動内容と実績

春まつりの時は、子どもたちとクッキーづくりを行った

2018年度は、七夕イベントとハロウィン

イベント、春まつりを下記の通り実施しました。

①七夕イベント 日にち：7月7日（土）

こども・親参加者：23名 ボランティア：12名

②ハロウィンイベント 日にち：10月27日（土）

こども・親参加者：20名 ボランティア：19名

③春まつり 日にち：3月30日（土）

こども・親参加者：7名 ボランティア：10名

（３）担当部門

担当部門：心理福祉学部心理福祉学科

担当教員名：金谷京子特任教授



4-5 地域の福祉施設×福祉を学ぶ学生との交流事業 (小沼聖治ゼミ：生活支援)

(1) 活動の目的と経緯

ボランティアの受け入れでお世話になっている医療法人大社会地域活動支援センター「ベルベッキオ」より、「もっと福祉を学ぶ学生と精神障がいを抱えつつも社会復帰を目指して頑張っているメンバーさんと交流できる場をつくれないうだろうか」と連携打診があったことがきっかけで、精神障がいを抱える方々との交流を通じて学生たちが障がいへの理解を深めること、メンバーさんの社会復帰への一歩を応援することを目的として交流企画に取り組んでいます。



大変盛り上がった巨大書初め

(2) 活動内容と実績

2018年2月に実施した第1回目の交流会が大変盛況だったことを受け、継続的に実施する方向で話がまとまり、2019年1月12日(土)に「もちつき大会」を実施した。餅つきと昼食会の後に学生考案の交流プログラムを実施。巨大書初めや、手作りの福笑い、上尾郷土かるたやトランプで盛り上がり、和やかな雰囲気の中、笑顔あふれる時を過ごすことができました。

(3) 担当部門

担当部門：心理福祉学部心理福祉学科、(ボランティア活動支援センター)

担当教員名：小沼聖治助教



4-6 福祉教育について考える会こころの輪「ここ輪」 (相川章子ゼミ：精神保健福祉論)

(1) 活動の目的と経緯

「こころの輪（通称：ここ輪）」は、精神保健福祉領域における福祉教育活動を行っています。「みんなで学ぼうメンタルヘルス、共に学ぼうリカバリーストーリー」を合言葉に、当事者の方々と一緒に学ぶことを大切にしながら、「誰もが住みやすい地域にしていこうこと」を目指し活動しています。



精神疾患について説明する学生たち

(2) 活動内容と実績

2018年6月12日（火）、埼玉県伊奈町立伊奈中学校のPTA家庭教育学級主催の講演会「発達障害と共に生きる～心を伝える～」において、精神障がい者への理解を広める発表と当事者の方々のリカバリーストーリーの紹介を行いました。発表では最初にアンケートを取り、参加されている方々が、精神障がい者についてどのようなイメージを持っているかを参加者自身がチェックをすることから始め、講演の前半では、そのアンケートを踏まえながら、精神疾患について、誰もがなる可能性がある身近な疾患であることを、ミニクイズや小芝居等取り入れながら紹介を行いました。そして後半は、ここ輪が大切にしている「当事者と一緒に学ぶ」機会として、当事者の方々による体験談（リカバリーストーリー）の紹介を行いました。

(3) 担当部門

担当部門：心理福祉学部心理福祉学科

担当教員名：相川章子教授



4-7 子ども大学 あげお・いな・おけがわ

(1) 活動の目的と経緯

埼玉県教育局、上尾市教育委員会、桶川市教育委員会、伊奈町教育委員会、日本薬科大学と本学で組織された子ども大学あげお・いな・おけがわ実行委員会の主催で実施しています。3市町の異なる学校から参加する小学5・6年生の子どもたちが大学のキャンパスで学ぶ子どものための大学で、教員が本学の特色を生かした学びをわかりやすく教えています。



第4日に本学で行われた講義の様子

(2) 活動内容と実績

平成30年度「子ども大学 あげお・いな・おけがわ」は下記の日程で行われ、9月1日（土）、9月8日（土）の後半2日間のプログラムについては本学の大学キャンパスを会場に実施された。

- ①第1日（入学式）：6月16日（土）／日本薬科大学（伊奈町）／参加者 57名
- ②第2日：7月7日（土）／日本薬科大学（伊奈町）／参加者 58名
- ③第3日：8月24日（金）／UDトラックス（上尾市）／参加者 55名
- ④第4日：9月1日（土）／聖学院大学／参加者 59名
- ⑤第5日（発表会・修了式）：9月8日（土）／聖学院大学／参加者 56名

本学で行われた内容としては、以下の通りです。

- ④第4日：9月1日（土）13：00～15：50

「英語を話したくなる絵本を作ろうーゲームと絵本で楽しむやさしい英語ー」

講師：小川隆夫特任講師

- ⑤第5日：9月8日（土）10：00～15：00

・「図形楽譜で歌を歌おう！ー知っている曲を自由にアレンジー」

講師：久保田翠准教授

・発表準備・発表会・修了式

担当教員：氏家理恵教授

(3) 担当部門

担当部門：地域連携・教育センター

担当教員名：氏家理恵教授（実行委員長）

4-8 特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化推進

(1) 活動の目的と経緯

高齢化が進む古い団地の活力を向上させるため、団地の一部を学生と子育て世帯向けの部屋に改修し、若い世代が入居するという埼玉県住宅課のモデル事業の一環として、本学の学生が県営シラコバト住宅に入居しながら自治会活動等を通じてコミュニティの活性化に取り組んでいます。



8月に行われた「にぎわい夏祭り」で出店を手伝う入居学生たち

(2) 活動内容と実績

2019年3月末時点で、8名の学生が入居しています（日本人学生1名、留学生7名）。2018年度学生たちは以下の活動に取り組みました。

①各棟での清掃活動への参加

入居学生は各棟で定められた清掃活動に参加している。清掃活動は各棟の入居者による当番制となっている。

②シラコバト住宅自治会主催 平成30年度 にぎわい夏祭り

毎年8月にシラコバト住宅自治会が主催する「にぎわい夏祭り」が平成30年8月4日（土）に開催された。本学より学生7名 職員1名が出店ブースを手伝い、好評であった。

③シラコバト住宅自治会主催 餅つき大会

シラコバト住宅自治会が主催する「餅つき大会」が平成31年1月19日（日）に開催された。本学より学生2名 職員1名が大会の準備と運営を手伝い、好評であった。

(3) 担当部門

担当部署：地域連携・教育センター

4-9 さいたま KI-TA まつり 2018

(1) 活動の目的と経緯

「さいたま KI-TA まつり」は、さいたま北商工協同組合を中心にした、KI-TA まつり実行委員会が、2011 年から毎年 10 月の日曜日に、宮原駅西口ロータリーで開催しています。本学も実行委員として関わり、地元の方々とともに地域の活性化に取り組んでいます。



ベトナム及びネパール料理を販売する留学生たち

(2) 活動内容と実績

10 月 28 日（日）に「さいたま KI-TA まつり 2018」が開催され、40 名以上の学生が参加しました。ボランティアの学生たちは、朝 7 時に集合し、テントの設営など会場準備を行い、10 時から 15 時半の開催時間帯は、交通整理、ゴミブースでのゴミの分別、福祉施設の販売補助、アンケート調査などを行いました。イベント終了後はテントの撤収、テーブル・イスなどの運搬も行いました。また、留学生たちは、ベトナム及びネパールの料理と飲み物のブースを出店しました。イベント前日に丸一日かけて準備し、おそろいの赤い T シャツで元気良く販売しました。その結果、出店した 15 ブースのうち、いち早く完売しました。

(3) 担当部門

担当部署：地域連携・教育センター

担当教員名：平修久教授、若原幸範准教授

4-10 大谷地区自主防災啓発事業

(1) 活動の目的と経緯

上尾市大谷支所と連携し、大谷地区の自主防災会でリーダーを担っている地域の方々と学生がともに防災について学び、自主防災意識の向上を図るために実施しています。

(2) 活動内容と実績

2018 年度は下記の通り自主防災啓発事業

を実施しました。

日 時：2018 年 12 月 15 日（土）

13：00～16：00／16：00～17：00（情報交換会）

場 所：聖学院大学 1 号館地下 1cafe

主 催：大谷地区自主防災組織連合会、聖学院大学ボランティア活動支援センター

参加者：区長・区長代理・防災士・市職員・・・31 名

聖学院大学学生・・・7 名 聖学院大学職員・・・3 名

講師・・・2 名

合計 43 名

実施内容：

①基調講義「みんなで繋がろう～今こそ共助のとき～」

講師：宮崎賢哉氏（災害支援・防災教育コーディネーター）

②活動報告等

・「西日本豪雨水害活動報告」 講師：市川富代子氏（ReVA 復興ボランティアチーム上尾）

・「避難所経験を通して伝えたいこと」 発表者：こども心理学科 4 年 菅野雄大

・「自助の重要性と今後の SAVE の展望」 発表者：人間福祉学科 2 年 布川泰樹

・「STEP.活動報告」 発表者：こども心理学科 2 年 今井翔子

・「イツモ防災の紹介」 担当者：上尾市の防災士



地域の方々と地域防災について語り合う学生

(3) 担当部門

担当部署：地域連携・教育センター

➤ 4-11 ボランティアサミット「未来をひらく～3.11から～」

(1) 活動の目的と経緯

埼玉の地で改めて、東日本大震災で起きたことを知り、考えることで風化を防ぐ機会にしたい、また復興支援活動に取り組む学生たちのネットワーキングの場にしたいと考え、埼玉県防災学習センターとの共催で、復興支援活動を継続する関東圏の学生による実行委員会形式によるイベントを実施しました。



グループワーク発表の様子

(2) 活動内容と実績

本学主催の復興支援ボランティアスタディツアーにおいても訪問させていただいた宮城県石巻市立旧大川小学校で掲げられてきた目標「未来をひらく」からのメッセージと、講演してくださった佐藤敏郎先生の「この大川小学校を悲劇の場所ではなく、未来をひらく場所として語られる場所にしたい」とのメッセージを受け止め、被災地そして被災者から私たちは何を学び取り、そしてその学びをどう未来につなげていくのか、参加者一人一人が向き合い、語り合い、実践につなげる機会として以下通りボランティアサミットを実施しました。

日時：時 2019 年 2 月 16 日（土） 11：00～17：00

会場：埼玉県防災学習センター

実施内容：

- ・講演会 講師：佐藤敏郎先生（小さな命の意味を考える会）
只野哲也さん（大川小学校卒業生、大学1年生）
- ・座談会 佐藤敏郎先生、只野哲也さん、副実行委員長2名によるシンポジウム
- ・グループワーク
- ・懇親会

(3) 担当部門

担当部門：ボランティア活動支援センター

連携先：埼玉県防災学習センター

「未来をひらく～3.11から～」実行委員会

4-12 ほたる祭り

(1) 活動の目的と経緯

本学では1960年代まで大学周辺に棲息し身近に親しまれていたほたるの再生に取り組んでいます。大学内で自生するほたる(*)は他に例がなく、2004年に「ほたるのビオトープ～ひかりのせせらぎ～」が完成して以来、ほたるが飛翔する季節に合わせてほたる祭り実行委員会主催の「ほたる祭り」を開催しています。

*「大学内で自生するほたる」とは、学内に整備しましたほたる用のせせらぎで、

卵から誕生した幼虫が約10か月水中で成長し、5月の連休の前後にせせらぎから上陸して土手にもぐり、約1か月さなぎとしてすごした後に、羽化して成虫になったことを意味しています。



ホタル観賞会の様子

(2) 活動内容と実績

2018年度は下記の通り「ほたる祭り」を実施しました。

第15回ほたる祭り

日時：2018年6月9日(土) 17:30~20:30 (ホタル観賞会は19:30前後から)

会場：聖学院大学4号館1階・図書館前・8号館南側「ひかりのせせらぎ」

実施内容：ホタル観賞会、模擬店、子ども遊びコーナー、鉄道模型展示、ビンゴ大会など

来場者：約250名

(3) 担当部門

担当部門：ほたる祭り実行委員会、ボランティア活動支援センター

担当教員名：平修久教授



4-13 復興支援ボランティアスタディツアー

(1) 活動の目的と経緯

聖学院大学では「神を仰ぎ 人に仕う」という建学の精神に基づき、東日本大震災直後より様々な支援活動を展開してきました。8年の時の流れと共に、現地のニーズも変化しており被災地に寄り添う息の長い活動が求められており、大学としても釜石市との協定締結（2014年1月29日）を踏まえて継続的な支援を行っていきたいと考えています。



「サンタプロジェクト8」こどもクリスマス会の様子

(2) 活動内容と実績

2018年度は3回スタディツアーを実施しました。

①桜プロジェクト7

ツアー日程：2018年4月21日(土)朝～22日(日)夕方 現地集合・解散 活動場所：岩手県釜石市
活動内容：被災地見学、盆栽桜の配布と植樹、同世代交流、
釜石原木椎茸再生プロジェクトのお手伝い

参加者数：学生9名、教職員3名

②よいさっ！プロジェクト5

ツアー日程：2018年8月3日(金)朝～6日(月)夜 活動場所：岩手県釜石市、宮城県石巻市
活動内容：被災地見学、現地の方のお話、ラグビー応援活動、釜石原木椎茸再生プロジェクトのお手伝い、「釜石よいさ」への参加、「かまっこ★あそびーらんど」の開催、宮城県石巻市立旧大川小学校フィールドワーク、など

参加者数：学生25名、教職員9名

（聖学院中学高等学校：生徒4名、教員1名 自由の森学園高等学校：生徒13名、教員2名）

③サンタプロジェクト8

ツアー日程：2018年11月30日(金)夜～12月2日(日)夜 活動場所：岩手県釜石市
活動内容：被災地見学、現地の方々との郷土料理づくり、釜石原木椎茸再生プロジェクトのお手伝い、仙寿院住職のお話と津波伝承の駆け上がり競争、こどもクリスマス会、など

参加者数：学生27名、教職員8名（自由の森学園高等学校：生徒3名、教員1名）

(3) 担当部門

担当部署：ボランティア活動支援センター



4-14 ボラフェス！

(1) 活動の目的と経緯

日頃学生がボランティア活動でお世話になっている福祉作業所や卒業生が働く福祉作業所の取り組みや製品を学生や教職員、地域の方々に紹介することを主な目的として実行委員会主催のフェスティバルを実施しています。

(2) 活動内容と実績

日時：2018年11月2日（金）

3日（土）

両日とも 10:00～15:00

会場：エルピス食堂

来場者数：1日目：154名 2日目：733名 合計 887名

実行委員：14名

当日ボランティア：13名

参加団体：NPO 法人リトルポケットあとりえふぁんとむ

社会福祉法人あらぐさ福祉会労働と教育の場「雑草（あらぐさ）」

認定 NPO 法人彩の子ネットワーク

医療法人 大社会 地域活動支援センター「ベルベッキオ」

社会福祉法人あげお福祉会 多機能型事業所プラスハート

社会福祉法人一麦福祉会 ワークスみぎわ

NPO 法人みのり

第2川越いもの子作業所

NPO法人みやはら福祉会ひびき

生活介護施設とさき

マゴソスクールを支える会

empower（欧米文化学科サベットゼミ、島田ゼミ）



「ボラフェス！」会場の様子

(4) 担当部門

担当部門：ボラフェス実行委員会・ボランティア活動支援センター

担当教員名：相川章子教授



4-15 総合図書館による地域連携活動

(1) 活動の目的と経緯

総合図書館の活動テーマの一つに「リエゾン」(連携)というキーワードがあり、教員・職員・学生だけでなく、地域社会との連携を推進する活動を積極的に行っています。



桶川市の OKEGAWA hon プラス+で本学教員の講演会を開催

(2) 活動内容と実績

①図書館の市民(高校生・一般)への開放

- ・総合図書館では、18歳以上の他大学に所属していない方であれば、どなたでも利用者登録を行って図書館を利用できます。また、高校生に関しても、土曜日と閉講期間中の平日の開館日は館内閲覧等の利用が出来るようになっています。

②上尾市図書館との連携

- ・定期的に職員の打合せや情報交換を行うほか、イベントチラシや利用案内を双方と図書館置くなどして連携をしています。

③ビブリオバトルの開催

- ・全国大学ビブリオバトルの地区予選会や地区決戦を主催、関東圏の大学生や大学院生に参加いただいています。
- ・人文学部主催の「高校生ビブリオバトル・ワークショップ」の運営に協力をして、ビブリオバトルをとoshした交流や読書推進活動を行っています。

④公開イベント in OKEGAWA hon プラス+の実施

- ・年に2回、桶川市駅前にある OKEGAWA hon プラス+にて、公開イベントを開催しています。市民を対象とした読書会や教員による講演会のほか、学生サークルと連携して、コンサートなども行っています。

⑤「図書館と県民のつどい埼玉」への参加

- ・埼玉県図書館協会等主催で、毎年12月に開催している「図書館と県民のつどい埼玉」の大学図書館部会の合同展示で、本館の特色ある資料の公開をしています。
- ・同会場で行われる「中高生ビブリオバトル」の予選会への会場提供及び運営、決勝の運営に協力をしています。

⑥埼玉県大学・短期大学図書館協議会(SALA)による連携

- ・SALA 設立時から運営に参画し、幹事館として幹事会運営に参加しています。SALA をとoshして、埼玉県内の大学、短期大学、研究機関等加盟機関と連携をしています。

(3) 担当部門

担当部門：学術支援部司書課

5.公開講座

5-1 聖学院大学公開講座

(1) 活動の目的と経緯

大学では、さいたま市教育委員会・上尾市教育委員会と共催して、聖学院大学公開講座を実施しています。大学の持つ機能を地域に開放し、地域と大学の連携を図るとともに、市民の高度かつ専門的な学習意欲にこたえるため、また、生涯現役であり続けたい方や社会人としての知識やスキルを高めたい方、豊かな教養を身につけたい方を対象に「人生100年時代」に向けた社会人教育を行っています。

(2) 活動内容と実績

内容としては、第一講座「共に生きる社会を創る」、第二講座「役に立つ英会話講座」、第三講座「パソコン講座」、第四講座「女声コーラス」、第五講座「初級手話講座」の5講座があります。

①受講期間：2018年5月12日～7月14日までの毎土曜日（10回）

②講座内容と講師：

第一講座「共に生きる社会を創る」 定員：40名

講師：古谷野亘教授 長谷部雅美助教 小沼聖治助教 金谷京子教授 中谷茂一教授
村上純子教授 堀恭子教授 大橋良枝教授 田村綾子教授 五十嵐成見助教

第二講座「役に立つ英会話講座」 定員：30名

講師：J.ナイチンゲール R.ローランド

第三講座「パソコン講座」 定員：40名

講師：埼玉 SOHO（NPO 法人）所属講師

第四講座「女声コーラス」 定員：80名

講師：藤田明

第五講座「初級手話講座」 定員：30名

講師：サインズミッション所属講師

③受講人数：253名

(3) 担当部門

担当部署：総務課公開講座係

5-2 履修証明プログラム

(1) 活動の目的と経緯

大学等では、これまでも科目等履修生制度や公開講座等を活用して、その教育研究成果を社会へ提供する取組が行われてきましたが、より積極的な社会貢献を促進するため、学生を対象とする学位プログラムの他に、社会人等の学生以外の者を対象とした一定のまとまりのある学習プログラム（履修証明プログラム）を開設し、その修了者に対して法に基づく履修証明書（Certificate）を交付できることになりました。（法第 105 条等）。本学でも、2016 年度より、履修証明プログラムを開設しています。

(2) 活動内容と実績

2018 年度は以下の 3 つのプログラムが設定されていますが、受講生は 0 名でした。

①「グローバル世界の文化的諸相」プログラム

現代の国際社会ではいわゆるグローバル化が進んでいるが、文化的側面においてもその影響が見られる。情報・財・人の交流が激しくなり、文化状況は一国単位で語ることが難しくなっている。日常生活の規範としての倫理もまたグローバル世界における多文化共生を視野に入れたものへの変容を迫られつつある。そのようなグローバル世界成立の歴史的端緒、映像など表象文化におけるグローバル的側面、グローバル的多文化状況に対する倫理的対応などを学ぶ。

②「基礎から学べる英語」プログラム

このプログラムは英語を基礎から復習し、資格試験の受検準備をしたい人を対象に開設されるものである。基礎から学び直したい場合は TOEIC(初級)からの履修が望ましい。TOEIC(中級)、Speech & Debate の履修を希望する場合は、TOEIC 350 点以上を取得していることが履修条件となる。授業ではペアやグループでの活動もあるので、積極的な参加が求められる。

③「福祉横断」プログラム

このプログラムは、社会福祉の制度・政策を学びたい人を対象に開設されたものである。社会福祉の制度は、われわれが安心して生活を送るために、世代を超えて普遍的に必要とされるものである。しかし、制度は年々複雑化しているためそれぞれの制度の内容を理解することは難しい。このプログラムでは、複雑に入り組んだ現在の日本の福祉制度を網羅的に学び、日本の福祉制度・政策の全体像と各制度の具体的内容を学ぶ

(3) 担当部門

担当部署：教務課



5-3 社会人を受け入れる教育プログラム

(1) 活動の目的と経緯

聖学院大学では、社会人の学びの機会として「社会人入学制度」「科目等履修生制度」「聴講生制度」を定めています。科目等履修生は、大学において授業を受けたの学生同様試験をクリアすることで単位の修得が可能です。単に修得は希望せず、授業のみを受講されたい方には、聴講生としてご利用いただくことができます。その他に埼玉県と連携した「リカレント教育」も行っています。

(2) 活動内容と実績

①社会人入学制度

i) 出願資格

社会的経験(正社員、自営業従事者、契約社員、長期アルバイト、主婦)を有する者で、各学科が求める学生像に適し、下記のいずれかに該当する者。

- ・高等学校を 2013 年 3 月 31 日以前に卒業した者。
- ・通常の課程による 12 年の学校教育を 2013 年 3 月 31 日以前に修了した者。
- ・高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると 2013 年 3 月 31 日以前に認められた者。

②科目等履修生制度・聴講生制度

i) 入学資格

- ・高等学校を卒業した者、または通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者
- ・高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者

ii) 審査方法：書類審査

iii) その他

- ・科目等履修生・聴講生は聖学院大学総合図書館を利用することができます。
- ・科目等履修生・聴講生ともに履修できる科目数および単位数は、原則として 1 学期 4 科目 12 単位までとなります。

③リカレント教育

埼玉県内在住の 55 歳以上の方を対象に、生活の充実や社会参加のきっかけづくりとして、埼玉県内の 22 大学と埼玉県が連携して授業科目の一部を開放しています。一般の学生と一緒に学びますが、単位の認定はありません。

(3) 担当部門

担当部門：教務課

6.学外委員会での活動（委員会名・役職名リスト）

氏名	所属	職名	委員会名（日本語）
清水 正之		学長	さいたま大学コンソーシアム委員 (2018/6 より副委員長)
石川 裕一郎	政治経済学部 政治経済学科	教授	上尾市人権施策推進協議会
石川 裕一郎	政治経済学部 政治経済学科	教授	上尾市男女共同参画審議会
平 修久	政治経済学部 政治経済学科	教授	上尾市戸崎公園指定管理者候補者 選定委員会
平 修久	政治経済学部 政治経済学科	教授	上尾市西貝塚環境センターの入札 に関する第三者調査委員会
平 修久	政治経済学部 政治経済学科	教授	八潮市市民活動推進委員会
平 修久	政治経済学部 政治経済学科	教授	上尾市街づくり推進会議 会長
竹井 潔	政治経済学部 政治経済学科	准教授	上尾市市民活動推進協議会 会長
竹井 潔	政治経済学部 政治経済学科	准教授	上尾市協働のまちづくり推進事業選 考委員会 委員長
若原 幸範	政治経済学部 政治経済学科	准教授	上尾市立南中学校学校運営協議会 委員
若原 幸範	政治経済学部 政治経済学科	准教授	上尾市学校運営協議会検討委員
若原 幸範	政治経済学部 政治経済学科	准教授	稚内市子どもの貧困対策プロジェク ト会議委員
氏家 理恵	人文学部 欧米文化学科	教授	子ども大学あげお・いな・おけがわ 実行委員
東 仁美	人文学部 欧米文化学科	教授	荒川区英語教育研究会講師
熊谷 芳郎	人文学部 日本文化学科	教授	埼玉県立大宮武蔵野高等学校学校 評議員
熊谷 芳郎	人文学部 日本文化学科	教授	茨城県立結城第二高等学校学力向 上運営指導委員会指導助言者
横山 寿世理	人文学部 日本文化学科	准教授	埼玉県立大宮光陵高等学校学校評 議員
井上 兼生	人文学部 日本文化学科	特任 教授	上尾市教育委員会の平成 30 年度 (平成 29 年度実施事業)点検評価 における第三者評価者
田澤 薫	人文学部 児童学科	教授	埼玉県立上尾かしの木特別支援学 校評議員
田澤 薫	人文学部 児童学科	教授	埼玉県北本市子ども・子育て会議
小池 茂子	人文学部 児童学科	教授	神奈川県生涯学習審議会委員
小池 茂子	人文学部 児童学科	教授	さいたま市公民館運営審議会委員
小池 茂子	人文学部 児童学科	教授	国立教育政策研究所「社会教育主 事講習の充実に資する教材等の開 発に関する調査研究(生涯学習支 援論)」委員

小川 隆夫	人文学部 児童学科	特任教授	荒川区教育研究会英語部研究会
小川 隆夫	人文学部 児童学科	特任教授	羽生市立岩瀬小学校校内授業研究会
柴崎 裕	人文学部 児童学科	特任教授	東京都日野市小学校教育研究会図画工作部会
齋藤 一雄	人文学部 児童学科	特任教授	さいたま市立ひまわり特別支援学校 学校評議員
齋藤 一雄	人文学部 児童学科	特任教授	上尾市就学支援委員会委員
齋藤 範雄	人文学部 児童学科	特任講師	久喜市中学生学力アップ教育事業 「くき本樹塾」学習支援員
古谷野 亘	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	上尾市地域包括ケアシステム推進 協議会委員長
古谷野 亘	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	杉並区健康長寿モニター事業運営 委員
古谷野 亘	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	杉並区長寿応援ポイント事業運営 委員会委員
古谷野 亘	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	杉並区介護保険運営協議会委員 (副会長 2008 年 6 月～2012 年 5 月, 会長 2012 年 6 月～)
古谷野 亘	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	東京都知的障害者育成会すだちの 里すぎなみ施設運営委員会委員 長・地域部会部会長
中谷 茂一	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	川島町子ども・子育て会議 議長
中谷 茂一	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	埼玉県子どもの権利擁護委員会 調査専門員
相川 章子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	上尾市障害福祉施策推進委員会 (委員長)
相川 章子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	川口市地域保健審議会委員/川口 市地域保健審議会部会(自殺対策 計画策定会議)(部会長)
相川 章子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	上尾市教育委員会特別支援教育推 進委員会委員
相川 章子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	さいたま市精神医療審査会委員
相川 章子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	上尾市いじめ問題調査委員
相川 章子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	日高市障害者地域総合支援協議会 (会長)
五十嵐 成見	心理福祉学部 心理福祉学科	助教	埼玉 YMCA 評議員
小沼 聖治	心理福祉学部 心理福祉学科	助教	春日部市空家等対策協議会委員
森分 大輔	基礎総合教育部	准教授	春日部市総合政策審議会委員
春木 豊	基礎総合教育部	特任 講師	川越市就学相談専門員

聖学院大学 地域連携事業報告書 2018

2019 年 7 月発行

発行

聖学院大学地域連携・教育センター

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号

TEL: 048-781-0079

E-mail: reco-edu@seigakuin-univ.ac.jp

URL: https://www.seigakuin.jp/about/community_relations/